

2022年6月10日池田市散策時に観察した植物

メキシコマンネングサ (メキシコ万年草) ベンケイソウ科マンネングサ属

花期=4~5月***名前の由来**・最初メキシコで見いだされたので、万年草は多肉植物で葉や茎に水分を貯えられるので、乾燥した所でも生きられ常緑であるから。原産地は不明、日本では関東以西~九州に分布している。日当たりの良い道端などの生え、葉は鮮緑色で光沢があり線状楕円形、花径の葉は互生、花の付かない茎の葉は4~5枚の輪生、花は黄色、直径0.7~1cm。***花言葉**=静寂・落ち着き・私を想ってください・記憶
同じ仲間に、「コモチマンネングサ」「ツルマンネングサ」がある。花、葉、よく似ているので特調を調べる。



チチコグサモドキ (父子草擬) キク科ハハコグサ属 1~2年草 ***花言葉**=いつまでも忘れないで

北アメリカ原産、日本には大正時代に渡来、全国に分布、茎には白い綿毛が密生している、葉はヘラ形で表裏ともに綿毛が密生している、裏面の方がより白色に見える。葉の縁が波打っているのが特調、花は茎の上部の葉腋に褐色の筒状花を付ける***名前の由来**・黄色の花のハハコグサに対して、褐色の花で地味な色からチチコグサと命名されて、このチチコグサに似ているのでモドキとなった。この中間は分類が難しい、他に、タチチチコグサ、エダウチチコグサ、ウラジロチチコグサ、ウスベニチチコグサ、等々



ナギナタガヤ (薙刀萱) イネ科ウシノケグサ属 1年草*花期=5~6月

名前の由来・穂が薙刀の様に一方にかたむいているから。北アフリカ原産、日本には明治時代牧草として導入、現在ではカンキツ類の栽培には必要なく里なっている、それは草丈が30~50cmになり初夏になると枯れて倒れ地面を覆い尽くすので、他の雑草が生えてこない、カキツ類に与える窒素等の肥料が雑草に摂取されることが無くなるので、これら草類を利用した栽培方法を草生栽培と言う、葉は長さ10~15cmで線形、葉の縁を巻き込んで棒状になる。茎は高さ30~50cm、叢生して株になり下部で屈曲し上部で立ち上がる。穂は細長く10~20cm名前の由来の片方に倒れている。



ネジバナ (振花) 別名モジズリ (緞摺) ラン科ネジバナ属 *花期=6~9月

名前の由来=ラセン状にねじれた花序から。**花言葉**=思慕、意味は恋い慕うこと、**万葉集**にも詠われて「芝付(しばつき)の御宇良崎(みうらさき)根都古(ねつこ)草(くさ)逢う見ずあはば吾(あれ)恋めやむ」と根都古草はネジバナのことです、「貴方に逢う事がなければ私は恋に苦しむ事がなかったのに」とひたすら恋しく思う姿を捻じれて咲く花の姿を重ねている。ネジバナは菌根となって菌類と共生しているので栽培は難しい、ラン科には珍しく身近に咲く



ホタルブクロ (蛍袋) キキョウ科ホタルブクロ属、*花期=6~7月

別命多くある=ツリガネソウ・アメフリバナ・トウロウバナ・アンドンバナ・フクロバナ・ツツカレバナ。**名前の由来も諸説ある**=一般的には、子供たちが捕らえたホタルを入れて遊んだ、次いで・昔は提灯のことを火垂る(ほたる)と呼び、その提灯の形に花が似ていることから火垂袋と呼ばれた、ホタルの名前もこの火垂るが語源だと言われる、ヤマホタルブクロとの違いは、萼片の付属体が反り返っているのがホタルブクロ、***花言葉**=忠実・正義・貞節 ***誕生花**=6/5 7/10 11/26 ・ヤマホタルブクロは萼のところが膨らんでいる。萼がくっついている



スズメノヤリ (雀の槍) イグサ科スズメノヤリ属 ・花期=4~5月

名前の由来=大名行列の毛槍に似た花に、小さい植物を形容する雀がついて、スズメノヤリです。北海道から九州まで分布、草地や畦などに普通に生えている、茎は高さ10~20cm茎の先に赤褐色の花が多数集まって卵球形の頭花を1個たまに2~3個つけるのもある、***花言葉**=邪魔しない



アオカモジグサ (青髭草) イネ科エゾムギ属 *花期=5~6月

名前の由来=子供が人形のかまじをこの草を使い結んで遊んだところからの命名、非常に繁殖力強く道端から草原まで繁殖している、日本では北街道から九州まで分布、同族のカモジグサと似ているが、本種は花が緑色で穂も緑色、何故緑色なのに青カモジグサと言うかと言えば、古語で青とは緑を含む、青~緑の系列の色を意味していた、確かに近くの山は緑に見えるが遠くの山は青く見える、同じ仲間に、カモジグサ・ヤマカジグサ・ミズタカカモジグサがある。

